

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990100063
法人名	株式会社ニチイ学館
事業所名	ニチイケアセンター奈良西大寺
所在地	奈良県奈良市菅原町89番地
自己評価作成日	平成23年10月3日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1 四天王寺堀越ビル
訪問調査日	平成23年10月27日
評価結果決定日	平成23年11月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、買い物に行ったりイベントに参加しながら、生き生きと生活されておられます。ホームにある庭でガーデニングを行なうことにより、春には花を楽しむ、秋には芋の収穫祭を楽しむことが出来ました。また、近所のお子様に花を差し上げることで、交流することができます。年2回の春と秋の外出では皆様おしゃれをされ、家族様も参加されて季節を楽しみながらの食事会をしています。職員一同、研修を重ねることで、ご利用者様へ、否定的な言葉ではなく、共感する言葉使いに気をつけています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落ち着いた雰囲気のある新興住宅地に立地しています。近隣には、公園や神社があり、日頃から散歩に出かけたりして、地域の方とも馴染みの関係となっています。また、自治会の行事にも参加されるなど、地域との関係づくりを積極的に行っておられます。今年は、ニチイ祭りとして、敷地内で作った薩摩芋堀りやウッドデッキでのお茶会など企画し、地域住民との交流会も計画されています。地域に根差した取組みに期待が持てます。ホームの雰囲気は、ゆったりとした時間が流れ、入居者の方も、落ち着いた表情で過ごされています。職員の言葉づかいや対応も、教育がなされ、ゆとりを感じる雰囲気があります。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

ユニット名 (みかさ・わかくさ)

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても安心して、馴染みの地域で暮らしていけるホームとして、一人ひとりに寄り添いながら個別ケアさせていただくことで、生き生きとした生活を送ることが出来るように支援していきます。	ホームの支援目標を簡潔に分かりやすく掲げられています。日々管理者から発信し、理念の共有に努めています。また、日頃より、より分かりやすい表現がないか模索しながら取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しています。地域の神社への散歩や行事への参加、近所の商店への買い物を通し地域の一員として暮らしています。	ホーム自体が自治会に加入しています。ホームが発行する通信紙を地域へ回覧し、行事や取組みの紹介等をし、地域の方へホームを知って頂こうと尽力されています。また、日常的に外出時に日常的に挨拶をするなど交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にホームの様子を知っていただく為に、自治会の協力を得て、「ほほえみ通信」を回覧していただき、開かれたホームを目指しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を開き、奈良市介護福祉課、伏見地域包括支援センター、自治会長、民生委員、ご家族さまに参加を呼びかけて、欠席された時は議事録を持参または郵送しています。ホームの活動状況報告や取り組み状況を報告し、意見やアドバイスをいただき情報交換しています。	2ヶ月に1回開催。家族代表、行政や自治会長などの関係者の参加もあり、活動状況の報告をされています。また、地域の福祉情報を収集したりし、意見交換をしておられました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議の議事録や提出物等、直接介護福祉課の担当者に持参して報告をしたり、問題点があるときは連絡をして相談しています。	日頃より、地域包括支援センターと連絡を密にとっています。また、他事業所との交流機会もあり、ホーム運営に役立てておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵は掛けず、玄関の出入りはチャイムで分かるようにしています。散歩以外にもご利用者が出かけた様子を感じたら、さりげなく職員は声かけし、話を聞きながら、寄り添うケアに取り組み、自由な暮らしを支援しています。	虐待や身体拘束の研修を行い、職員に周知されていました。玄関や1階2階の入り口も施錠せず、見守りで対応しておられました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的高齢者虐待防止マニュアルを基に研修会を開いています。日々の話し合いの中でも正しいケアの確認をして、職員がゆとりをもてるようにチームワークの良いホームを目指しています。特に否定的な言葉使いはしないようにに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が研修を受けています。また、制度を利用されている方を通し、学んだことはホーム会議で職員一同共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退去、改定時には、文章により説明し理解・納得を得られた後、契約書や届出書に署名捺印を取り交わしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議や、年2回の家族会開催時に意見交換や相談、要望を聞いております。またホームに来られる度に、家族と遠慮なく話せる関係作りに努めています。	日頃より、家族と積極的にコミュニケーションを図り、意見や要望の収集をされています。また、年2回家族会を開き交流を深めたり、運営推進会議で意見交換をされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロアー会議やホーム会議において意見交換しています。	管理者の温かいホームづくりをしたいとの思いがある。管理者とリーダーは、職員の意見や要望を積極的に聞き出そうと、日頃からコミュニケーションを密にとっておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり、試験と面接でステップアップすることが可能です。またチャレンジシートによる評価もあり、職員の意欲と質の向上が行なわれています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時より、段階的に研修があり業務の一環としてステップアップをする機会があります。外部研修にも積極的に参加する機会があります。参加後は、伝達研修をして参加しなかった職員にも共有出来るように取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや勉強会には、会社から参加を勧められており積極的に参加しています。また、伏見地域包括支援センターが中心になって主催される「地域包括ケア」の取り組みの中で地域資源の一員として、情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の協力も得ながらセンター方式を使用して情報を整理し、利用者の希望や意向の把握に努めています。日常の会話や表情からも汲み取り、センター方式に活かしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から御本人との面談を通して、生活状況を理解し、ご家族ともよく話し合い、ホームでの生活が安全で安心できる場所であることを確認していただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずホームに馴染んでいただき、本人の一番の希望や問題点を理解して支援していくことに努めています。また、ホームでは対応が難しいことができた場合には必要とされるサービスをご本人及びご家族に提案を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のことや畑・花作り、調理等を教えていただくことで、ホームの主体にもなっていただく環境を作っています。またご利用者様どうしが気軽に会話ができるよう関係作りにも努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や各季節の行事などホームにご家族が気軽に来ていただくことができる機会を企画しています。また、ケアプランにご家族の役割も希望に応じて提案し、共有しながら支援をおこなっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームを家として出入りしやすい、明るい雰囲気にも努めています。またお買い物や外出を通して、今まで過ごして来られた生活の継続に努めています。	知人の面会や家族の協力で、今までの関係を途切れない様、働きかけています。(過去に、入居前から参加していた趣味のサークルに継続して通われていた方の支援もしていただきました。)	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションをしたり、お誕生会でみんなで祝いをしたり、食事や共同作業を通して馴染みの関係を築いてもらいます。職員がご利用者様どうしのパイプ役となり、円滑に交流ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後においても、ご家族様からの相談がある時は相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話を傾聴していく中で希望や意向を聞き、また、「本人の立場で感じとり考え気づいて動く」実践的な姿勢を職員みんなで共有しています。	入居時にセンター方式を使い、アセスメントを行い情報収集に努めている。日々の様子や言動など、記録に書き、思いの把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りをおこなったり、入居、面会時に思い出の写真や馴染みの品物等を持参していただいたり、コミュニケーションの中から生活歴や暮らし方の把握に努めています。それを損なわずご本人が維持していけるような支援を目指しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段ご本人と接する暮らしの全ての場面を活かして習慣や好みを見つけたり(視察)、会話の中でさりげなく問いかける取り組みを日常的におこなっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態を把握して、一番必要とされていることに対してご本人やご家族と話し合い、それを職員みんなが共有して支援内容を考え、介護計画を作成しています。必要時にはプランの修正を行なっています。	入居者の日々の言動や行動を記録し、思いの把握をされています。また、家族からの意見も含め介護計画を立案されています。また、3か月に1度、カンファレンスを行い、全体の把握に努めておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書が個別の介護記録に反映されるように記録しています。また日々の活動や利用者の言葉、生活状況、心身状態を記録して介護計画を実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望にあわせ、健康管理において24時間対応の訪問看護や自費サービスを利用を提案させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会やボランティアの協力を得て地域交流に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医やかかりつけ医と連携し、ご本人やご家族が希望される適切な医療を受けていただける環境を整えています。また必要に応じて病院の受診が受けられるようにも支援を行っています。	元々のかかりつけ医への受診や家族や本人が希望する病院への受診が可能。また、協力病院の往診や訪問看護との24時間の連携があります	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師や24時間対応の訪問看護ステーションの看護師との連携を図り、報告・連絡・相談・助言を受けながら健康管理や医療の活用を支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院診療、緊急外来、緊急入院における協力医療機関と連携しています。入院時には病院を訪問して積極的に情報交換や相談を行い、安心して退院出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、ご本人やご家族の希望に寄り添い、充分な話し合いを行った上で、主治医や病院関係者と連携しながら安心できる支援をしていきたいと思えます。	入居前にホームの方針を伝えておられます。対応が可能な限り、希望や要望に添える様、取り組まれています。	指摘事項ではありませんが、過去に終末期のケアを、ホーム内でギリギリまでされた経験があります。その対応は、職員の精神的・肉体的な負担が多いと思います。終末期ケアの在りや対応を整理したり、精神的なフォローなど、一度、検討してみたいかでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDが設置されており、緊急体制のマニュアルが整備され、ホーム会議等で定期的に研修を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は年2回実施しています。その時に非難通路を確認しています。非常食は御利用者職員との3日分を準備しています。運営推進会議の際に自治会に協力要請を行っています。	年2回の防災訓練を実施しています。地域住民への訓練参加を呼び掛けています。また、防災設備の点検や消防署への報告等も定期的に行われています。	地域住民への協力依頼をしておられますが、住民の参加がないのが現状です。自治会との協力関係を築き、共同訓練などを通して、災害時に協力して頂ける様な取組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの生活層等を把握し情報を共有して十分な配慮を行い、自尊心を傷つけないように対応しています。特に否定的な言葉は避け、共感することに努めています。	ゆとりを持って言葉かけを行うように、徹底されています。一人ひとりの尊厳が守られるように、常に職員間で声をかけあい、人格の尊重に心掛けておられています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家庭的な雰囲気大切に信頼関係を築き、話しやすいように努めています。そして傾聴に努め、自己表現がスムーズに出来るように対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ個人のペースに合わせて自由に過ごしていただけるような支援を、またその日の空気を読み取り利用者に合わせるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一度の訪問美容を利用しカットや毛染めをしています。多くの方がおしゃれを楽しんでおられます。外出時は帽子やスカーフ、かばん等のおしゃれに配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中から利用者の食べたい食事を取り入れ、バランス等を考慮してメニュー作りをしています。また職員と一緒に食事の準備や調理、後片付けをしていただいています。	入居者の意見を取り入れ、献立を立てておられます。また、準備もできる範囲で、入居者の方と職員とで共同で作業されています。食事中も、馴染みの方と共に会話をしながら食事をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が楽しみの時間になるように、メニューを工夫しています。また体調にあわせておじややミキサー食、トロミ食の対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は口腔ケアをしています。またご希望により、訪問デンタルで定期的な歯のケアをされています。		





自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お預かりしているお金からご自分の嗜好品を買われた時にお金を払っていただくことがあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家に電話をしたいとの希望があれば、掛けていただきます。家族様とも話し合い了解済みです。 年賀状を書いたり手紙を書かれたら、郵送しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや室温には注意して、散歩で摘んできた草花を飾る等、快適に安全に過ごしていただけるようにしています。七夕やクリスマス、お正月はみんなでリビングを飾りつけて季節感を味わっていただいています。	リビングや生活空間は明るく、台所近くや廊下にソファを配置し、入居者同士がふれあう環境を整えています。1階にはウッドデッキがあり、そこでお茶を楽しむ事ができます。	入居者の方が作った手作りの飾り物などを飾りつけてはどうでしょうか。その方の喜びに繋がることもあると思います。また、ちょっとした飾りつけで、一層家庭的な雰囲気を演出できると思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを設置することで、そこが気の合った人たちでおしゃべりしたり、くつろいだ場所になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やベット、テレビが置かれ、それぞれの自分の部屋としてくつろいだ空間になっています。 家族の写真やカレンダーを掛けたりされています。	ベッドやタンスなど、持ち込まれています。また、趣味を継続できるよう配慮されていたり、家族の写真を飾っていたり、居心地の良い空間づくりをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室、居室の入り口には手すりが設置されています。トイレの場所が分かるように、床に目印や札を掛けています。 車椅子が通りやすいように机や椅子の配置に配慮しています。		